

## こころの花

四月二十三日のあさ、目をさますとおかあさんがいないいました。

「あつちゃん、じいじがきのうのよる天ぐくにいつちゃったよ。」とおかあさんがなきながらいいました。わたしのしんぞうはバクバクしています。どうしよう。

つぎの日、おつうやがありました。たくさんの人がきて、みんなないています。おばあちゃんは、ずつとずつとないでいて、おかあさんもおばさんもおじさんもみんなないています。わたしの目からもなみだがボロリとおちてきました。

おじいちゃんは、いつもとてもやさしくてニコニコしていました。おかあさんがおしここのときは、わたしのめんどうをみてくれました。わたしのおうちにくるとき、いつもたくさんのおやつをもってきてくれて、いっしょにたべました。おりょうりだつていっしょにしました。ぎょうざづくりがとてもじょうずで、ほっぺがおちるほどおいしかったです。なかでもたまね

ぎみたいなかちにしたぎょうざが大好きでした。

おそうしきがおわつておじいちゃんのかおをさわるとひんやりつめたくなつていました。もう大すきなじいじにあえないんだな。かなしいな。またなみだがでてきます。おてらのおしゅうさんのおはなしで、こころにのこつたことが一つあります。それは、

「きれいな花はやがてかれてかたちはなくなるけど、こころにはいつまでものこつていきますよ。」

というおはなしでした。おじいちゃんもいつまでもわたしのこころのなかにさきつづけて、いつもいっしょにいるようなきがします。いきているときにはいえなかつたけど、たくさんあそんでくれてかわいがつてくれてありがとう。これからもこころのなかのじいじといっしょにいろんなことをがんばりたいです。

猪狩いかり 明香あすか